SONY

4-414-779-**02**(1)

パーソナルオーディオシステム

取扱説明書・保証書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告　電気製品は安全のための注意事項を守らないと、
火災や人身事故になることがあります。
この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。
この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

* 4 4 1 4 7 7 9 0 2 * (1)

ZS-S10CP

品　名　パーソナルオーディオシステム
型　名　ZS-S10CP
保証書　T05-1

ここに保証書が入ります

Complete the film by inserting the warranty at this position.

在此處插入保證書完成菲林。

在此位置插入保证书以完成胶片。

安全のために

機器を本箱や組み立て式キャビネットのような通気が妨げられる狭いところに設置しないでください。

火災や感電の危険をさけるために、本機を水のかかる場所や湿気のある場所で使用しないでください。

本機は容易に手が届くような電源コンセントに接続し、異常が生じた場合は速やかにコンセントから抜いてください。通常、本機の電源を切っただけでは、完全に電源から切り離せません。

本機の上に花瓶などの水の入ったものを置かないでください。
本機の上に、例えば火のついたローソクのような、火災源を置かないでください。

付属の電源コードセットは、本機専用です。他の電気機器では使用できません。

電池は、直射日光、火などの過度な熱にさらさないでください。

機銘板は、本機の底面に表示されています。

ご注意
この装置に対し光学機器を使用すると、目の危険を増やすことになります。

レーザーの仕様
- 放射時間：連続
- レーザー出力：44.6μW 未満

この出力値は、7mm の開口部にて光学ピックアップブロックの対物レンズ面より 200mm の距離で測定したものです。

使用上のご注意

置き場所について
本機やCD等を次のような場所には置かないでください。
- 磁石やスピーカーのすぐそばなど、磁気を帯びたところ
- テレビの近く
- 窓を閉め切った自動車内（特に夏期）

取り扱いについて
- CDぶたを開けたまま放置しないでください。内部にゴミやほこりが入り、故障の原因になることがあります。
- 本機のスピーカーには強力な磁石を使っていますので、次のようなものは本機のそばに置かないでください。
  －時計
  －クレジットカードなどの磁気カード
  －カセットテープ、ビデオテープなどの磁気テープ
- CDぶたを開けたままでは、キャリングハンドルが持ち上がらない構造になっています。無理にハンドルを持ち上げないでください。

CD-R/CD-RWについて
- 本機は、CD-DAフォーマット*で記録されたCD-R（レコーダブル）とCD-RW（リライタブル）ディスク、MP3フォーマットを再生することができます。ただし、ディスクや記録に使用したレコーダーの状態によっては再生できない場合があります。

* CD-DAは、Compact Disc Digital Audioの略で、一般オーディオCDに使用されている、音楽収録用の規格です。

著作権保護技術付音楽ディスクについて
- 本機は、コンパクトディスク（CD）規格に準拠した音楽ディスクの再生を前提として、設計されています。いくつかのレコード会社より著作権保護を目的とした技術が搭載された音楽ディスクが販売されていますが、これらの中にはCD規格に準拠していないものもあり、本機で再生できない場合があります。

DualDiscについて
- DualDiscとはDVD規格に準拠した面と、音楽専用面とを組み合わせた新しい両面ディスクです。尚、この音楽専用面はコンパクトディスク（CD）規格には準拠していないため、本製品での再生は保証致しません。

CDの取り扱いかた
- 文字の書かれていない面（再生面）に触れないように持ちます。
- 紙やシールを貼ったり、傷つけたりしないでください。

- 長時間再生しないときは、ケースに入れて保存してください。ケースに入れずに重ねて置いたり、ななめに立てかけておくとそりの原因になります。
- 本機では円形ディスクのみお使いいただけます。円形以外の特殊な形状（星形、ハート形、カード型など）をしたディスクを使用すると、本機の故障の原因となることがあります。

CDのお手入れのしかた
- 指紋やほこりによるCDの汚れは、音質低下の原因になります。いつもきれいにしておきましょう。
- ふだんのお手入れは、柔らかい布でCDの中心から外の方向へ軽く拭きます。

- 汚れがひどいときは、水で少し湿らせた布で拭いたあと、さらに乾いた布で水気を拭き取ってください。
- ベンジンやレコードクリーナー、静電気防止剤などは、CDを傷めることがありますので、使わないでください。

故障かな？と思ったら

本機が正しく動作しないときは、下記の項目をチェックしてください。
それでも正しく動作しないときは、ソニーの相談窓口またはお買い上げ店にお問い合わせください。

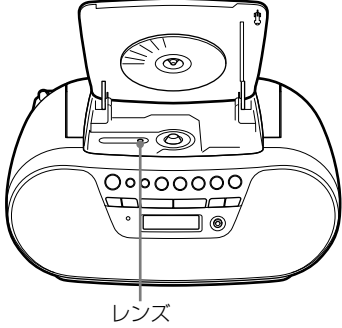
共　通

電源が入らない。
- 電源コードをAC IN端子とコンセントにしっかり差し込む。
- 乾電池を正しく入れる。
- 乾電池が消耗していたら、すべて新しいものと交換する。

音が出ない。
- 音量を調節する。
- ヘッドホンを🎧（ヘッドホン）端子から抜く。

雑音が入る。
- 近くで携帯電話などの電波を発する機器を使用している→携帯電話などを本機から離して使用する。

CD部

再生が始まらない。
CDが入っているのに「noDISC」が表示される。
- CDが裏返し→文字のある面を上にする。
- CDの汚れがひどい→クリーニングする。
- レンズに露（水滴）がついている→CDを取り出してCDぶたを開けたまま1時間くらい置く。

- ファイナライズ処理（通常のCDプレーヤーで再生できるようにする処理）をされていないCD-R/CD-RWディスクは再生できません。
- CD-R/CD-RWでは、ディスクや記録に使用したレコーダーの状態によって再生できない場合があります。
- CD-R/CD-RWに何も録音されていない。
- 乾電池が消耗していたら、すべて新しいものと交換する。

音がとぶ。
- 音量を下げる。
- CDの汚れがひどい→クリーニングする。
- 振動のない場所に置く。
- CDに傷がある→CDを取り換える。
- CD-R/CD-RWでは、ディスクや記録に使用したレコーダーの状態によって、再生された音がとんだり、雑音が入ることがあります。

ラジオ部

FM受信時ステレオにならない。
- モード切換ボタンを押して、「ST」を表示させる。
- ステレオ放送のときのみステレオで聞くことができます。

雑音が入る。
- FMステレオ放送を受信しているときは、受信状態によっては雑音が多くなります。
- 乾電池が消耗していたら、すべて新しいものと交換する。
- テレビの近くでAM放送を受信すると、AM放送に雑音が入ることがあります。また室内アンテナを使用しているテレビの近くで、本機でFM放送を聞くと、テレビの画像が乱れることがあります。このようなときは、本機をテレビから離してください。

主な仕様

CDプレーヤー部

型式　コンパクトディスクデジタルオーディオシステム
チャンネル数　2チャンネル
ワウ・フラッター　測定限界以下（JEITA*[1]）
周波数特性　20Hz － 20,000Hz +1/−2dB（JEITA）

ラジオ部

受信周波数　FM: 76.0MHz － 90.0MHz
AM: 531kHz － 1,710kHz
アンテナ　FM: ロッドアンテナ
AM: フェライトバーアンテナ内蔵

共通部

スピーカー　フルレンジ: 8cm、コーン型8Ω、2個
入力端子　音声入力（ステレオミニジャック）
出力端子　ヘッドホン（ステレオミニジャック）1個
負荷インピーダンス
16Ω － 32Ω
実用最大出力　1.0W + 1.0W（JEITA/8Ω）
電源　本体用：
家庭用電源（AC100V 50Hz/60Hz）
単2形乾電池6個（別売り）使用（DC 9V）
消費電力　11W
約0.7W（電源OFF）

電池持続時間*[2]

使用乾電池 / 測定条件	マンガンR14P	ソニーアルカリLR14
CD再生時*[3]（JEITA）	約1.5時間	約13時間
FM受信時	約7時間	約30時間

*[1] JEITA（電子情報技術産業協会）規格による測定値です。
*[2] 周囲の温度や使用状況、電池のメーカーや種類により、上記の電池持続時間と異なることがあります。
*[3] 音量4分目程度

最大外形寸法　約299mm × 126mm × 210mm
（幅 × 高さ × 奥行き）
（最大突起部含む）（JEITA）
質量　本体　約1.9kg
ご使用時　約2.4kg（乾電池、CD含む）
付属品　電源コード（1）、取扱説明書・保証書（1）、安全のために（1）、ソニーご相談窓口のご案内（1）

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

保証書とアフターサービス

保証書
●所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
●保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを
この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときは
ソニーの相談窓口またはお買い上げ店にご相談ください。

保証期間中の修理は
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は
修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について
当社ではパーソナルオーディオシステムの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後6年間保有しています。ただし、故障の状況その他の事情により、修理に代えて製品交換をする場合がありますのでご了承ください。

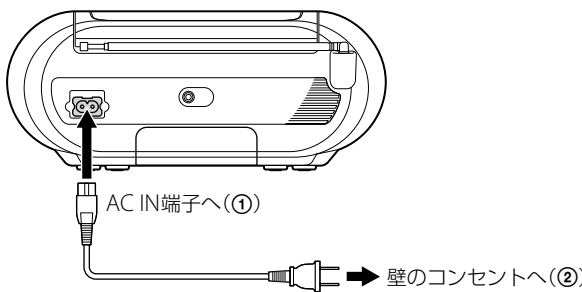
商標

本機はFraunhofer IISおよびThomsonのMPEG Layer-3オーディオコーディング技術と特許に基づく許諾製品です。

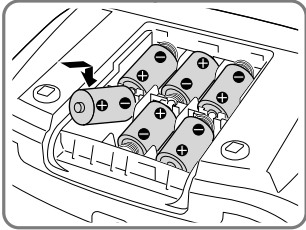
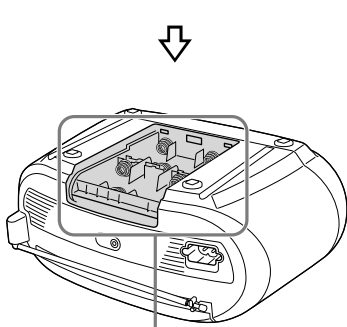
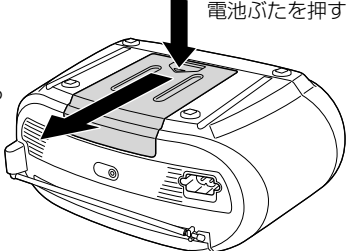
準備をする

本機は家庭用電源、または乾電池（別売り）のいずれかを選んでお使いになれます。

電源コードを接続する

本機のAC IN端子へ差し込んだあと（①）、壁のコンセントへ差し込んでください（②）。

乾電池を使用する

単2形乾電池6個（別売り）を入れてください。乾電池でお使いになるときは、電源コードは抜いてください。

底面

乾電池の交換について
乾電池のみで使用中、乾電池が消耗してくると電源/電池ランプが暗くなったり、自動で電源が切れたりします。すべて新しい電池に交換してください。

ご注意
- 乾電池を出し入れするときは、CDを取り出しておいてください。CDぶたの中でCDがずれて傷つくおそれがあります。

電源を入れる

電源/電池ランプが点灯するまで、電源ボタンを押してください。

電源を切るには
電源/電池ランプが消えるまで、電源ボタンをもう1度押してください。

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などはホームページをご活用ください。　**http://www.sony.jp/support/**

使い方相談窓口
フリーダイヤル……………0120-333-020
携帯電話・PHS・一部のIP電話‥ 0466-31-2511

修理相談窓口
フリーダイヤル……………0120-222-330
携帯電話・PHS・一部のIP電話‥ 0466-31-2531
※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

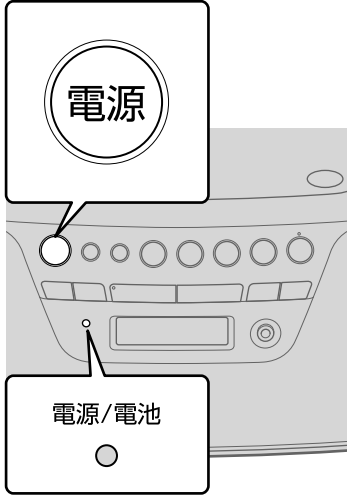
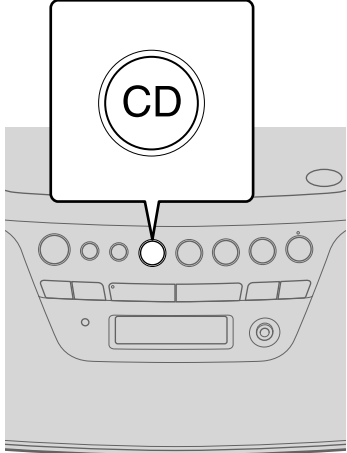
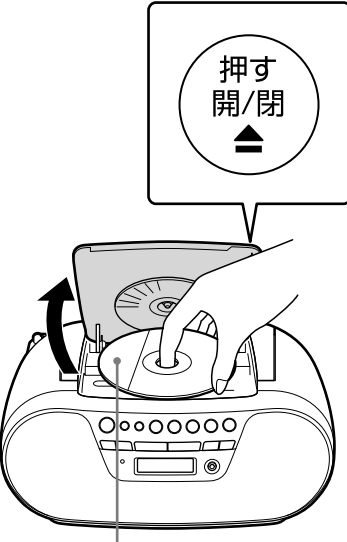
左記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に「304」+「#」を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。

FAX（共通）0120-333-389

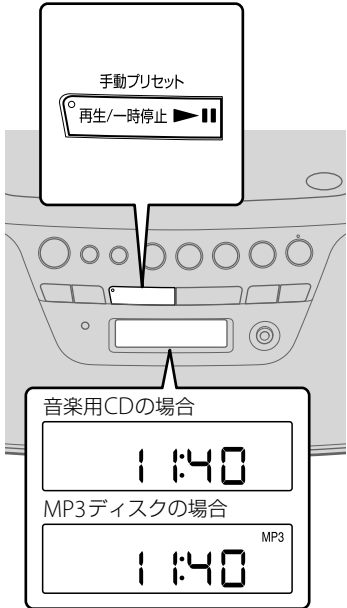
ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

CDを聞く

次のCDを再生できます。
- 音楽用CD（市販）
- CD-R/CD-RW
（音楽用CDフォーマットで記録）
- CD-R/CD-RW
（MP3オーディオファイルを記録）

1　電源ボタンを押す。
電源/電池ランプが点灯します。

2　CDボタンを押す。

3　開/閉（⏏）を押して、CDぶたを開け、CDを入れる。

文字がある面を上に

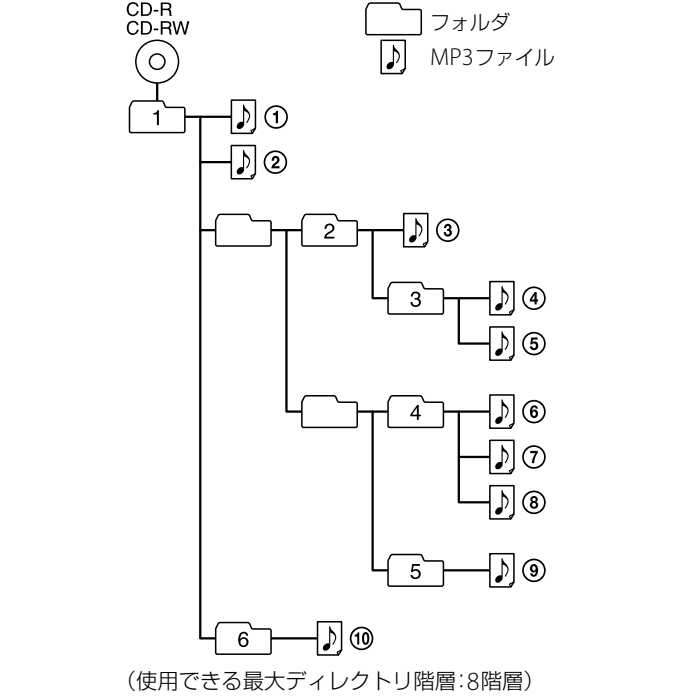
4　開/閉（⏏）を押して、CDぶたを閉める。

5　再生/一時停止（▶II）*ボタンを押す。
再生が始まり、表示窓に再生経過時間が表示されます。

* 凸点がついています。操作の目印としてお使いください。

ご注意
- CD再生中はCDぶたを開けないでください。

ちょっと一言
- ヘッドホンで聞くときは、ヘッドホンを本体の背面にある🎧（ヘッドホン）端子につないでください。

したいこと	操作
音量を調節する	音量＋、－ボタンを押す。 表示窓に「VOL」が表示されます。
再生を止める	停止（■）ボタンを押す。
再生中に一時停止する	再生/一時停止（▶II）ボタンを押す。 もう1度押すと再生が始まります。
次の曲へ進む	▶▶Iボタンを押す。
曲の頭に戻る	I◀◀ ボタンを押す。
曲を聞きながら聞きたい部分を探す	再生中に▶▶IまたはI◀◀ ボタンを押したままにする。
表示窓の再生時間を見ながら聞きたい部分を探す	一時停止中に▶▶IまたはI◀◀ ボタンを押したままにする。
MP3ディスク内のファイルを選ぶ（MP3ディスクのみ）	🗀/選局＋または－を押す。
MP3ディスク内のファイルを繰り返し聞く（MP3ディスクのみ）	停止中に「🗀」「⮌」に切り換わるまで、モード切換ボタンを繰り返し押して、🗀/選局＋または－を押す。
CDを取り出す	開/閉（⏏）を押す。
CDの全曲数と全再生時間を調べる	CD停止中には1回、再生中には2回、停止（■）ボタンを押す。 全曲数、全再生時間の順に表示されます。 表示切換・決定ボタンを押すと、全曲数を再確認できます。
CD再生中に曲番を調べる	CD再生中に表示切換・決定ボタンを押す。

MP3内の再生の順番について
MP3 CDでは、書き込みの方法によって再生の順番が異なる場合があります。下記MP3 CDの例では、①から⑩の順にファイルが再生されます。

（使用できる最大ディレクトリ階層：8階層）

MP3ディスクについてのご注意
- ディスクや記録に使用したレコーダーの状態によっては、再生が始まるまでに時間がかかったり、再生されない場合もあります。
- MP3 CDに対して、本機はフォルダとMP3ファイルあわせて510個まで認識します。
- MP3ファイルのディスクでは、MP3以外のフォーマットのファイルや不要なフォルダを書き込まないでください。
- MP3ファイルには、「.mp3」の拡張子を付けてください。ただし、MP3以外のファイルに「.mp3」の拡張子を付けると、そのファイルは正しく認識されません。
- MP3ファイルに圧縮するとき、圧縮ソフトの設定は「44.1 kHz」、「128 kbps」の「固定」を推奨します。

ちょっと一言
- 一度再生を停止し、次に再生/一時停止（▶II）ボタンを押すと、前回再生を停止した曲番より再生されます（レジューム再生）。停止中は再生中の曲番が表示されます。
- 再生前に1回、停止（■）ボタンを押すと、レジューム再生をキャンセル（1曲目の始めより再生）できます。

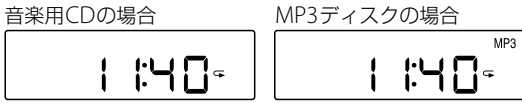
繰り返し聞く（リピート再生）

CDに入っている曲を1曲または全曲繰り返して聞くことができます。

1　電源ボタンを押す。
2　CDボタンを押す。
3　停止中にモード切換ボタンを押して、以下の操作をする。

リピートの種類	操作
1曲だけ繰り返す	1「⮌1」に切り換わるまで、モード切換ボタンを繰り返し押す。 2 ▶▶IまたはI◀◀ ボタンを押して、曲番を選ぶ。
全曲を繰り返す	「⮌」に切り換わるまで、モード切換ボタンを繰り返し押す。
プログラムした曲順で繰り返す	1「PGM」「⮌」に切り換わるまで、モード切換ボタンを繰り返し押す。 2「聞きたい曲を好きな順に聞く（プログラム再生）」の手順4、5の操作を繰り返す。

4　再生/一時停止（▶II）ボタンを押す。
再生が始まります。

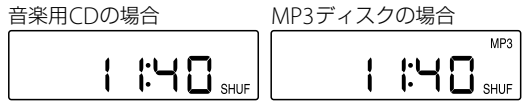
音楽用CDの場合　　MP3ディスクの場合

リピート再生をやめるには
停止中に「⮌」の表示が消えるまで、モード切換ボタンを繰り返し押す。

ご注意
- 再生中、または一時停止中にモード切換ボタンは使えません。
再生中にモード切換ボタンを押した場合、「PUSH STOP」が表示されます。

順不同に聞く（シャッフル再生）

CDに入っている全曲を順不同に聞くことができます。

1　電源ボタンを押す。
2　CDボタンを押す。
3　停止中に「SHUF」に切り換わるまで、モード切換ボタンを繰り返し押す。
4　再生/一時停止（▶II）ボタンを押す。
再生が始まります。

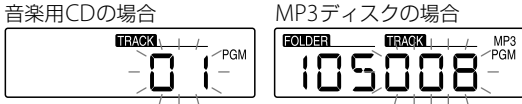
音楽用CDの場合　　MP3ディスクの場合

シャッフル再生をやめるには
停止中に「SHUF」の表示が消えるまで、モード切換ボタンを繰り返し押す。

ご注意
- 再生中、または一時停止中にモード切換ボタンは使えません。
再生中にモード切換ボタンを押した場合、「PUSH STOP」が表示されます。

ちょっと一言
- レジューム再生はシャッフル再生時には使用できません。

聞きたい曲を好きな順に聞く（プログラム再生）

聞きたい曲を聞きたい順に20曲までプログラムを登録することができます。

1　電源ボタンを押す。
2　CDボタンを押す。
3　停止中に「PGM」に切り換わるまで、モード切換ボタンを繰り返し押す。
4　I◀◀ または▶▶Iボタンを押して、曲番を選ぶ。
選んだ曲番が点滅します。

5　決定ボタンを押す。
「P-xx」が表示されます（xxはプログラム番号）。

6　手順4、5の操作を繰り返す。

7　再生/一時停止（▶II）ボタンを押す。
プログラムした順に再生が始まります。

プログラム再生で全曲繰り返すには
停止中に「PGM」「⮌」に切り換わるまで、モード切換ボタンを繰り返し押す。

プログラム再生をやめるには
停止中に「PGM」の表示が消えるまで、モード切換ボタンを繰り返し押す。

プログラムを変更するには
再生前には1回、再生中には2回、停止（■）ボタンを押して、現在のプログラムを消してから、プログラムしなおす。

ご注意
- 再生中、または一時停止中にモード切換ボタンは使えません。
再生中にモード切換ボタンを押した場合、「PUSH STOP」が表示されます。

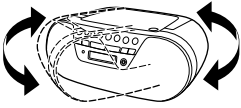
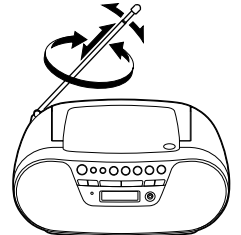
ちょっと一言
- 21曲以降の曲をプログラムすると、「FULL」が表示されます。
- プログラム再生が終わっても、作ったプログラムは残っています。再生/一時停止（▶II）ボタンを押すと同じプログラムをもう一度聞くことができます。CDぶたを開けるとプログラムの内容は消えます。
- レジューム再生はプログラム再生時には使用できません。

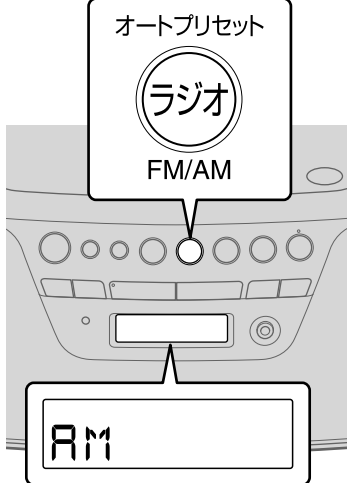
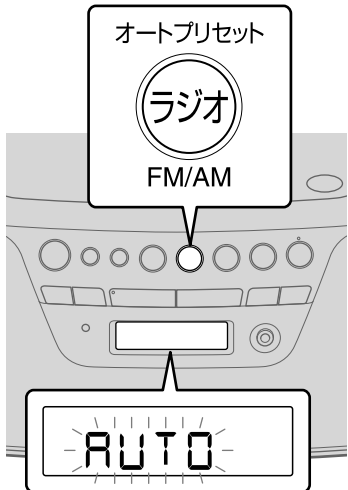
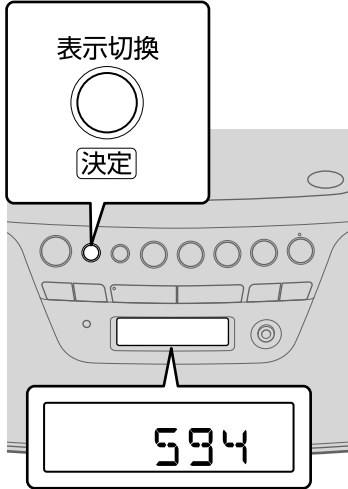
ラジオを聞く

自動で放送局を記憶させる（らくらくラジオ選局の準備）

受信状態の良い放送局を自動で記憶させ、次からは記憶させた番号（プリセット番号）でその局を選ぶことができます。

良い受信状態にするには
窓際など、受信状態の良い場所で行ってください。

AM放送局
本体を最も受信状態の良い方向へ向ける。

FM放送局
本体のロッドアンテナを伸ばし、向きを変える。

1　電源ボタンを押す。

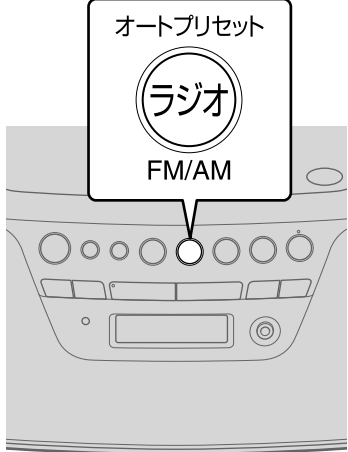
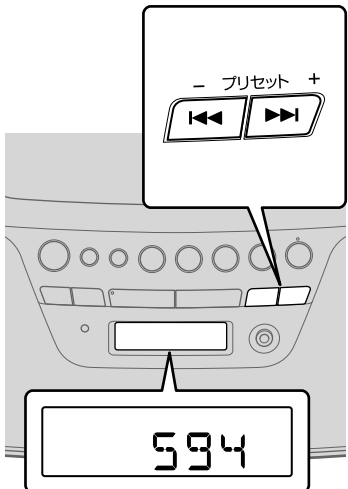
2　ラジオボタンを押して、「AM」を表示させる。

3　ラジオボタンを約2秒間押したままにして、「AUTO」を表示窓に点滅させる。

4　「AUTO」が点滅している間に、決定ボタンを押す。
プリセット番号の1番から順に、周波数の低い局から高い局へ受信状態の良い局が自動で記憶されます。

5　自動で放送局が設定されるまで、約30秒待つ。
いずれかの放送局からラジオが流れたら、AM放送局の設定は完了です。

6　手順2 ～ 5を繰り返して、FM放送局を設定する。

自動で記憶できない放送局がある場合には
1 電源/電池ランプが点灯するまで、電源ボタンを押す。
2 ラジオボタンを押す。
3 🗀/選局＋または－ボタンを押して、記憶させたい放送局を受信する。
4 手動プリセットボタンを押す。
「FM-xx」または「AM-xx」が表示されます（xxはプリセット番号）。
5 プリセット＋または－ボタンを押して、記憶させたいプリセット番号を選ぶ。
6 決定ボタンを押す。
新しい放送局を記憶すると、同じプリセット番号に記憶されていた前の局は消えます。

記憶させた放送局を聞く（らくらくラジオ選局）

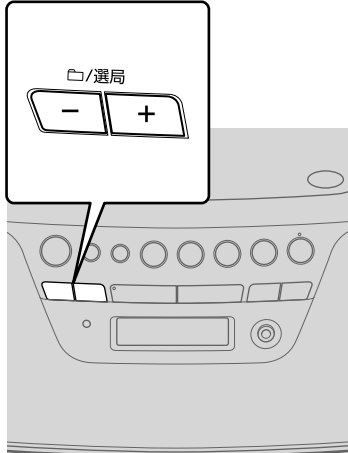
あらかじめ記憶させておいた放送局を簡単に選ぶことができます。

1　ラジオボタンを押す。

2　プリセット＋または－ボタンを押して、聞きたい放送局のプリセット番号を選ぶ。
プリセット番号が表示されたあと、周波数が表示されます。

3　音量を調節する。

自動で放送局を記憶させずにラジオを聞く

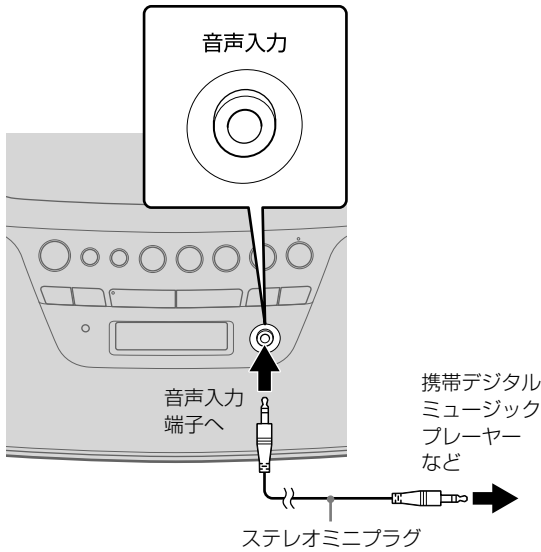
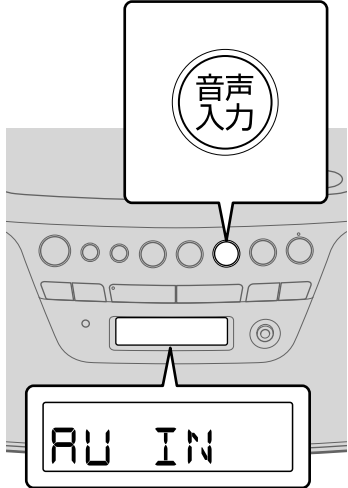
1　電源ボタンを押す。

2　ラジオボタンを押す。
「FM」または「AM」が数秒間表示されたあと、周波数が表示されます。FMまたはAMを切り替える場合は、再びラジオボタンを押します。

3　🗀/選局＋または－ボタンを押して、周波数を合わせる。
🗀/選局ボタンを押したままにして、数字が動き始めたら指を離すと、放送局が自動で受信されて止まります。

4　音量を調節する。

外部機器をつないで聞く

携帯デジタルミュージックプレーヤーなどの外部機器を本機につないで、スピーカーから流れる音を楽しむことができます。つなぐ前に本機と接続機器の電源を切ってください。

1　別売りの機器を本体前面の音声入力端子につなぐ。
別売りの音声接続コード（ステレオミニプラグ）を使って、別売りの機器の音声出力端子（ヘッドホン端子など）につなぎます。

2　音声入力ボタンを押す。
「AU IN」が表示されます。

3　つないだ機器で再生を始める。
本機のスピーカーから音声が出力されます。
再生について詳しくは、つないだ機器の取扱説明書をご覧ください。

4　音量を調節する。

ご注意
- 接続した外部機器の出力端子がモノラルジャックの場合は、本機の右側スピーカーから音が出ない場合があります。
- 接続した外部機器の出力端子がLINE OUT端子の場合は、ひずみが発生する場合があります。音がひずんだ場合は、ヘッドホン端子につないでください。
- ミュージックプレーヤーのヘッドホン端子とつないだ場合は、ミュージックプレーヤーの音量を上げてから、本機の音量を調節してください。